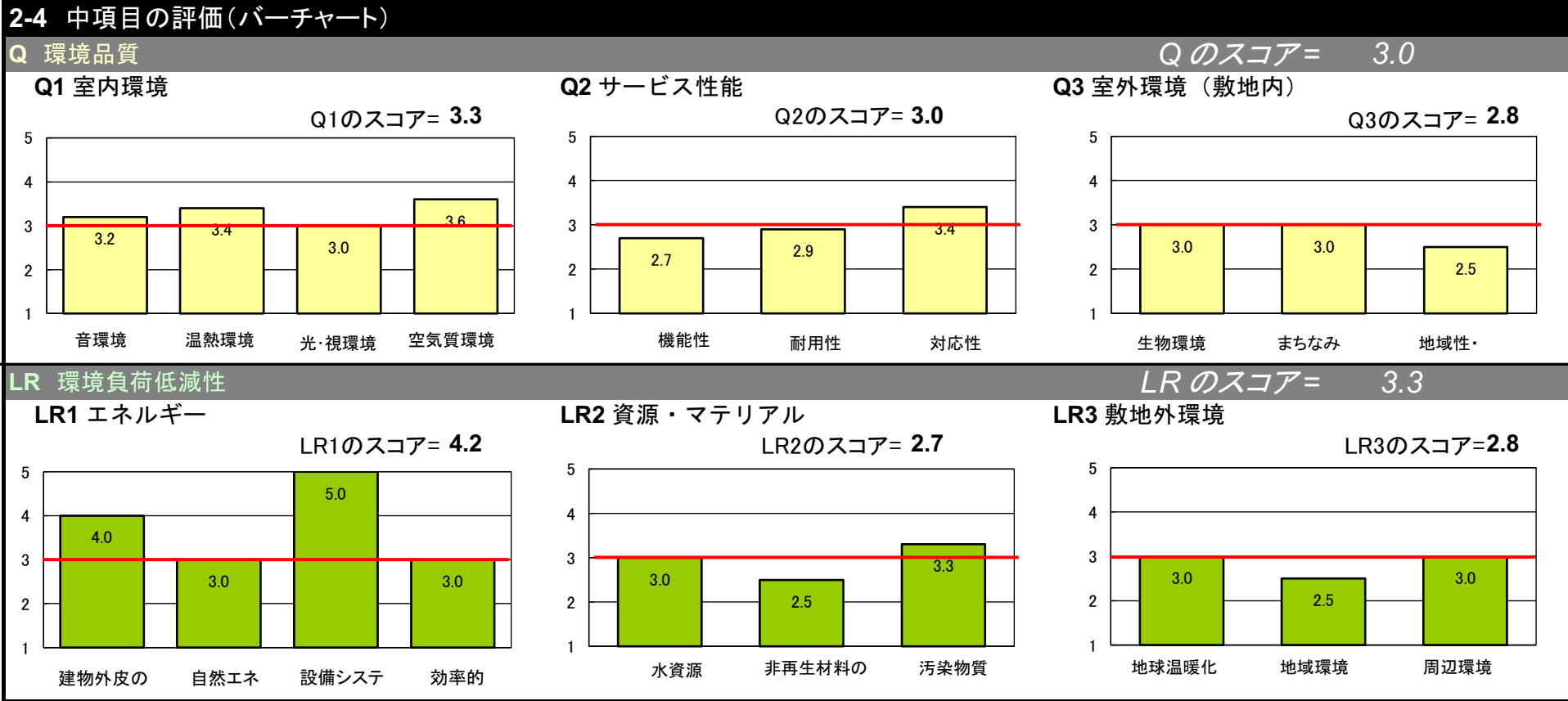
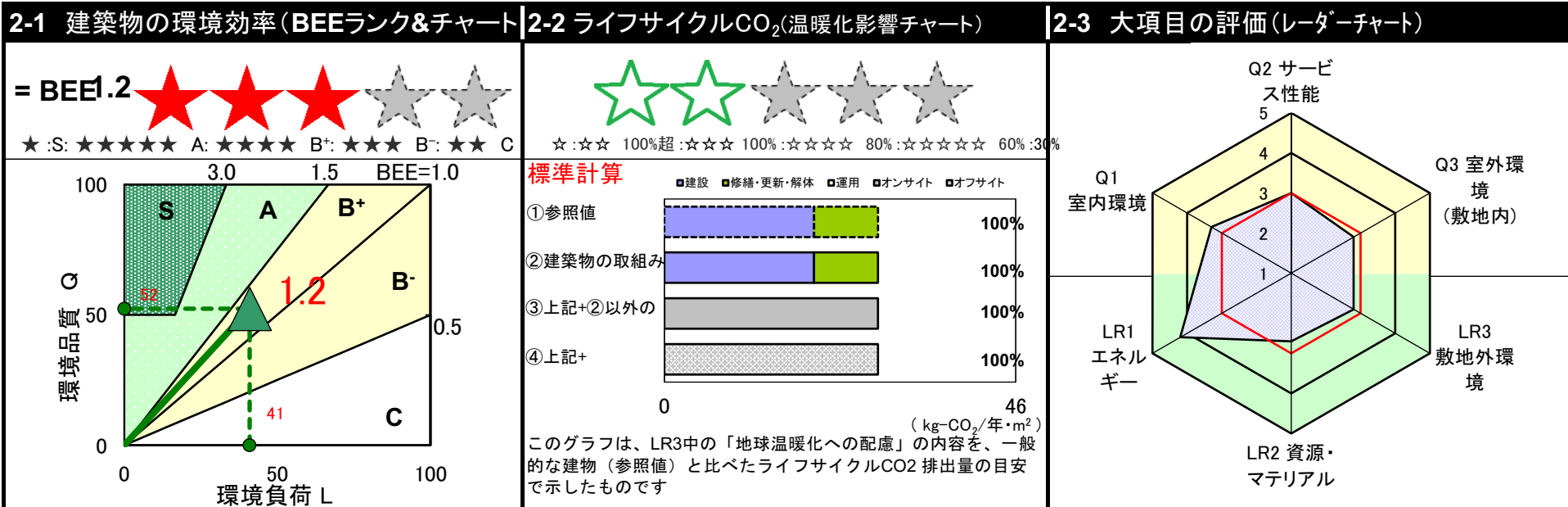




■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)クリオ名古屋金山	階数	地上14F	 は ま て く だ さ い
建設地	愛知県名古屋市中区金山四丁目604番、605番、606番	構造	RC造	
用途地域	中高層階住居専用地区、防火地域、緑化地域、駐車場整備地区	平均居住人員	208 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価	
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年2月20日	
敷地面積	736 m ²	作成者		
建築面積	383 m ²	確認日	2021年2月20日	
延床面積	4,372 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・熱橋の多くに断熱補強を施し、住戸内の温熱環境および一次エネルギーの消費量の抑制に配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
・外皮性能の向上およびシックハウス対策に配慮している。	・天井高および階高に余裕を持たせ、快適性・対応性に配慮している。	・多くの緑地を確保し、周辺環境および地域住民との関係に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物外皮の熱不可抑制に配慮している。 ・LED照明を採用している。	・ノンフロン発泡材を採用している。 ・F☆☆☆☆建材を採用している。	・周辺道路に面して、積極的に植栽し、街並みの形成、緑化に努めている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)クリオ名古屋金山

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.8



2. 自然共生

評価点 = 2.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。